

舞台芸術・視覚芸術拠点施設の整備 検討について

京都府 文化施設政策監

目次

1

旧総合資料館跡地等に関する検討経過

2

整備の方向性やコンセプト等の整備に関する考え方

3

各委員や文化芸術関係者等から頂戴した御意見

4

舞台芸術・視覚芸術拠点施設が果たすべき機能・役割

【参考①】京都市内での舞台芸術・視覚芸術拠点施設（ホール）一覧

【参考②】旧総合資料館敷地暫定活用事業

1 旧総合資料館跡地等に関する検討経過（R4～現在）

R4.8 第1回 旧総合資料館跡地等の活用に係る意見聴取会議 ～経過及び課題、議論の方向性～

＜主なご意見＞

- ・プロが公演する施設を一般の府民も使えるということが大事
- ・子どもたちが文化芸術に親しめることが重要。親子連れで気軽に体験できる施設が良いのではないか。
- ・文化芸術を切口に多様な人々の交流（アートミックス）が生まれると良い。
- ・府民の意見をどれだけ聴いたのかということが大事。ワークショップのような形で府民の意見を聴く場を設けるべき。

R4.11 第2回 旧総合資料館跡地等の活用に係る意見聴取会議 ～論点整理と方向性～

＜主なご意見＞

- ・舞台芸術・視覚芸術拠点施設に求められるのは一般府民の創造活動を支援するという役割。ウェルビーイング（日常の幸福）について、アートの観点から北山エリアはどのように寄与できるのかということが重要なコンセプト。
- ・伝統芸能や現代演劇といった既存の枠組みにとらわれず、文化芸術の幅を広げるようなアートミックスの展開が必要。
- ・継続して事業がやっていけるような財源が捻出できるのかということが重要。

R4.11 北山エリア整備に係るワークショップ ～旧総合資料館跡地等の活用～

＜主なご意見＞

- ・演劇と展示を組み合わせた作品も発表できるなどフレキシブルに使えるとよい。
- ・練習だけでなく簡易な発表にも対応しているとよいのではないか。公演や共催事業等と連携した中長期的な貸し付けなど幅広い利用が図れる設えと運営が必要。
- ・屋外ステージや飲食施設、文化芸術のワークショップなどがあると植物園の利用者にも立ち寄ってもらえるのではないか。

R5.5 第3回 旧総合資料館跡地等の活用に係る意見聴取会議 ～整備内容の検討～

＜主なご意見＞

※P. 5参照

文化芸術関係者等とのヒアリング（随時実施）

＜主なご意見＞

※P. 6参照

R6.7 第4回 旧総合資料館跡地等の活用に係る意見聴取会議

2-1 整備の方向性やコンセプト等の整備に関する考え方（第3回意見聴取会議資料より抜粋）

旧総合資料館跡地等の活用に係る視点

【文化芸術振興の視点】

- ▶ 老朽化が進む京都府立文化芸術会館及び令和2年度に閉館した京都こども文化会館の優れた機能を継承したプロ・アマチュアを問わない多様な人々の創造活動を支援する場
- ▶ 子どもたちをはじめとした幅広い府民が文化芸術に触れて交流することができる場（文化芸術の裾野の拡大）
- ▶ 交流・創造・発表・発信の機能を備えることで文化芸術の好循環を生み出す場

【まちづくりの視点】

- ▶ 北山通からエリア内に人々を誘導するエントランスとしての役割と多様な人々の交流の創出
- ▶ エリア内や周辺の立地施設、地域とのハード・ソフト両面での有機的な連携
- ▶ 豊かな自然環境や住環境との調和を図り日常から離れたやすらぎと憩いの提供
- ▶ 子どもや高齢者、障害者、妊産婦など誰もが快適で安心して利用することができる空間づくり

【整備の方向性】

舞台芸術・視覚芸術拠点施設と北山エリア全体の魅力向上につながる付帯施設を一体的に整備することで文化芸術とまちづくりに両輪で取り組む

【コンセプト】

府民一人ひとりが誇りと愛着を持てる文化芸術を軸とした交流創造空間

2-2 整備の方向性やコンセプト等の整備に関する考え方（第3回意見聴取会議資料より抜粋）

舞台芸術・視覚芸術拠点施設

【劇場（ホール）機能】

演劇を中心に伝統芸能やバレエ、ダンス等の舞台芸術や映画・映像などの多様な分野の公演に対応し、舞台と客席の一体感を特徴とした劇場機能を提供する。

【展示（ギャラリー）機能】

絵画、彫刻、工芸作品等の様々な分野の美術工芸作品の展覧会に対応し、北山エリアを訪れた人々が気軽に鑑賞できるよう室内の様子がかがえるような開放的な展示機能を提供する。

【創作機能】

豊かな自然環境の中、多様な人々との交流によって創造性を刺激されながら、演劇、伝統芸能、ダンスなどの多様な分野の創作（練習）活動ができる機能を提供する。また、子どもたちをはじめとした幅広い府民が文化芸術に触れられるワークショップなど多目的な利用を想定する。

【交流・発信機能】

北山エリアのエントランスとしての役割とともに、文化芸術を軸に多様な人々が交流して発信できる機能を提供する。

付 帯 施 設

【交流・創造・発信機能】

舞台芸術・視覚芸術拠点施設を単体で整備するのではなく、北山エリアのエントランスとしての役割を発揮し、エリア内各施設（府立植物園、府立大学等）の役割や機能を強化・補完する施設を付帯施設として整備することでエリア全体の魅力向上を図る。

3-1 第3回意見聴取会議における御意見

前回会議では各委員から以下のような御意見があった。

観点	意見
施設間連携	<ul style="list-style-type: none">・北山エリア内の施設や地域との連携により、北山への愛着を深められるとよい。・複合施設を一つのコンセプトのもとで事業者が上手く連携している事例があり、資料館跡地においても同様にできるとよい。
文化・芸術の魅力発信	<ul style="list-style-type: none">・近年、芸術が多様化しており、それらに柔軟に対応できる施設にして欲しい。・芸術作品の販売など、アートの経済性にも触れて欲しい。
アクセス・動線	<ul style="list-style-type: none">・北山駅近くの立地を活かすことで、雨の日でも多くの人々が訪れやすい施設にしてほしい。・北山エリア整備に関して複数の専門家会議があるが、エリア全体の動線の問題などについて、俯瞰的・総合的に考えられるとよい。
民間ノウハウの活用	<ul style="list-style-type: none">・資料館跡地だけでやりたいことを全て実現するのは難しい。府だけでやりきるのでなく、民間のノウハウを生かすことが大事。・事業者募集に向けた要件定義が難しいので、まずはサウンディングなど、民間導入に向けたステップを踏む必要がある。・単なるPFI・PPPではなく、この施設に何が必要か、事業性も含めて府と事業者等が深く対話しながら進める必要がある。
計画の具体化	<ul style="list-style-type: none">・ウェルビーイングなど、抽象的な言葉を具体的に言葉にしていくことで計画の解像度を上げていくことが重要。・様々な意見を取り入れた上で、運営が持続できる形で現実的なものにしていく段階にきている。

3-2 文化芸術関係者等からの御意見

第3回会議開催後に実施した文化芸術関係者等へのヒアリングでは、以下のような御意見があった。

観点	意見	相手方属性
施設間連携	植物園が北山門付近で整備を検討している学習拠点について、稼働率向上のために芸術拠点施設と共有できる部分があれば合理的ではないか。	植物園職員
	植物園の学習拠点施設側に文化芸術関係のワークショップもできる諸室を設けて連携することも考えられる。	演劇関係者
	植物園から芸術拠点施設にも来てもらえるような計画が効果的ではないか。	文化芸術関係者
	芸術拠点施設周辺のスペースは緑豊かで憩いのある広さを感じるデザインが良いのではないか。	演劇関係者
文化・芸術の魅力発信	共用部はガラス張りにするなど、施設の外に向けて発信できるような計画がよい。	演劇関係者
	気軽に展示室に訪れてもらいたいので、1階に配置して行き交う歩行者にも視認してもらえるような施設にしてほしい。	視覚芸術関係者

また、過去に開催した府民参加によるワークショップ等においても、施設間連携や文化・芸術の魅力発信の観点から、次のような意見が出されている。

- ・ 屋外ステージや飲食施設、文化芸術のワークショップなどがあると植物園の利用者にも立ち寄ってもらえるのではないか。
- ・ 北山のエントランスやランドマークとなれば、文化芸術活動の発信の場として交流の拠点となる
- ・ 若者・子供向けの施設との複合施設となれば、多様な世代・属性の人が交流し、文化芸術に親しむきっかけになる

4-1 舞台芸術・視覚芸術拠点施設が果たすべき機能・役割

これまでに頂戴した様々な御意見を踏まえ、舞台芸術・視覚芸術拠点施設が北山エリアの中で果たすべき機能・役割を以下のとおり整理。

北山エリアのエントランスにふさわしい文化・芸術の魅力あふれる顔づくり

- ・ 北山エリア北東部において多様な人々が集うエントランスとしての顔づくりを目指す。また、地下鉄駅とつながる駅まち一体型の空間形成を図る。
- ・ 北山通沿道への文化・芸術による魅力の滲み出しを図るとともに、北山通から南にのびるプロムナードにより、通りを行き交う人々を北山エリアに誘い込み、エリア全体での回遊性の向上を目指す。

「自然環境と文化芸術が共存する北山エリア」を発信するまちなみの形成

- ・ 隣接する賀茂川や植物園の自然環境との調和に配慮するとともに、周辺住宅地のまちなみにも配慮した景観形成を目指す。
- ・ 京都の中でも稀有な郊外性を活かし、緑に囲まれた中に文化・芸術・学術施設が集積する環境づくりを目指すとともに、地球環境に配慮した都市空間として、国内外からの来街者に北山エリアの魅力を発信する。

交流・憩いの場の創出、良好な環境の維持による地域の価値向上

- ・ エリア内に、交流や憩いの場となるパブリックスペースを設け、緑陰による心地よい空間を提供し、地域住民・府民のウェルビーイングに貢献する。
- ・ 地域住民や周辺施設の管理者など北山エリアに関わる様々な人々のつながりを大切にしながらエリアマネジメントを推進していくことで、良好な環境の維持や地域の価値向上を図る。

4-2 具体的な機能の整理

施設・設備	必要となる具体的な機能
ホール	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての客席が視覚的にも聴覚的にも良好な鑑賞条件となる配置にするため、客席の幅は舞台の開口幅よりも広くなりすぎないように配慮が必要。 ・最大視距離は舞台上の細やかな表現も見極めることができる距離となるように工夫。 ・快適に過ごせるよう客席間隔は前後・幅ともにできる限りゆとりのある計画にすることが必要。
スタジオ	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な利用者が使い易いよう、小シアター・中シアター双方の複数設置が必要となるが、必ずしもホール部分との合築は必要なく、芝居小屋のイメージや可変なものも含めて検討。 ・ホール利用者の練習用にも活用できるよう、ホールの舞台寸法に準じる広さを有する大シアターが必要。大シアターは、ダンス等に対応するため、床はホール舞台と同等の弾力を持つ構造を想定し、バレエバーや全面鏡の設置も検討。 ・「ブラックボックス」と呼ばれる、舞台と客席が一体となった全体的に暗い色調の四角い空間を設けると、舞台関係者にとって利便性が向上。 ・衣裳・小道具などの製作作業やメディアアートの作品づくり等のための複数の作業室が必要。
ギャラリー	<ul style="list-style-type: none"> ・展示室は100㎡程度であればアマチュア団体の利用も利用しやすく、可動間壁などにより分割使用も想定。 ・大型の絵画や書道の展示等に対応するためには4m以上の天井高さが必要。 ・展示系アートと舞台芸術系アートを融合する空間として「ホワイトキューブ」(※)の設置も検討。(50㎡程度の広さが好まれ、天井高さは7m確保できると利便性が向上。)

※ホワイトキューブ：装飾を排した白い立方体型の展示空間。美術作品の展示に加え、メディアアートの発表やダンス・演劇などの身体表現等も含めた幅広い作品の発表の場として活用可能。

(イメージ例)



ブラックボックス型の小劇場：THEATRE E9 KYOTO
(コトブキシーティングHPより引用)



ホワイトキューブ型の展示空間：101WHITE SPACE
(101WHITE SPACE HPより引用)

施設・設備	必要となる具体的な機能
エントランス	<ul style="list-style-type: none"> ・建物の主入口内の空間は、それぞれの目的施設にアプローチするためのスペースであり、ホールの開場を待つ人々の待機スペースとなることから、できるだけ大きな空間の確保が必要。 ・各部門への動線がわかりやすいことや会場待ちの人々が動線の妨げにならないよう配慮が必要。 ・エントランスロビーが隣接施設との結節点となることを考慮したゾーニング計画が必要。
プロムナード	<ul style="list-style-type: none"> ・エリア全体を南北に結ぶ歩行者空間として、府立大学・歴彩館から北山通につながるプロムナードを設置。 ・本施設にはプロムナードに面して開かれ、交流・発信拠点となる機能が重要。 ・舞台芸術・視覚芸術拠点施設、京都コンサートホール、陶板名画の庭に囲まれた広場を計画するなど、来訪者、府民の交流イベント開催時の空間を設け、各施設間の連携を促進する機能が必要。 ・プロムナードに面する諸室にはできる限りガラス張りの開口部を設け、内部の活動が見通せるようにすることも検討。 ・北山エリアの豊かな自然環境を活かしたオープンスペースとして、パブリックアートの展示や植物園などエリアを訪れた人々を施設内に誘導する機能が必要。

(イメージ例)



大空間を確保したエントランス：アクリエひめじ
(姫路フォトバンクHPより引用)



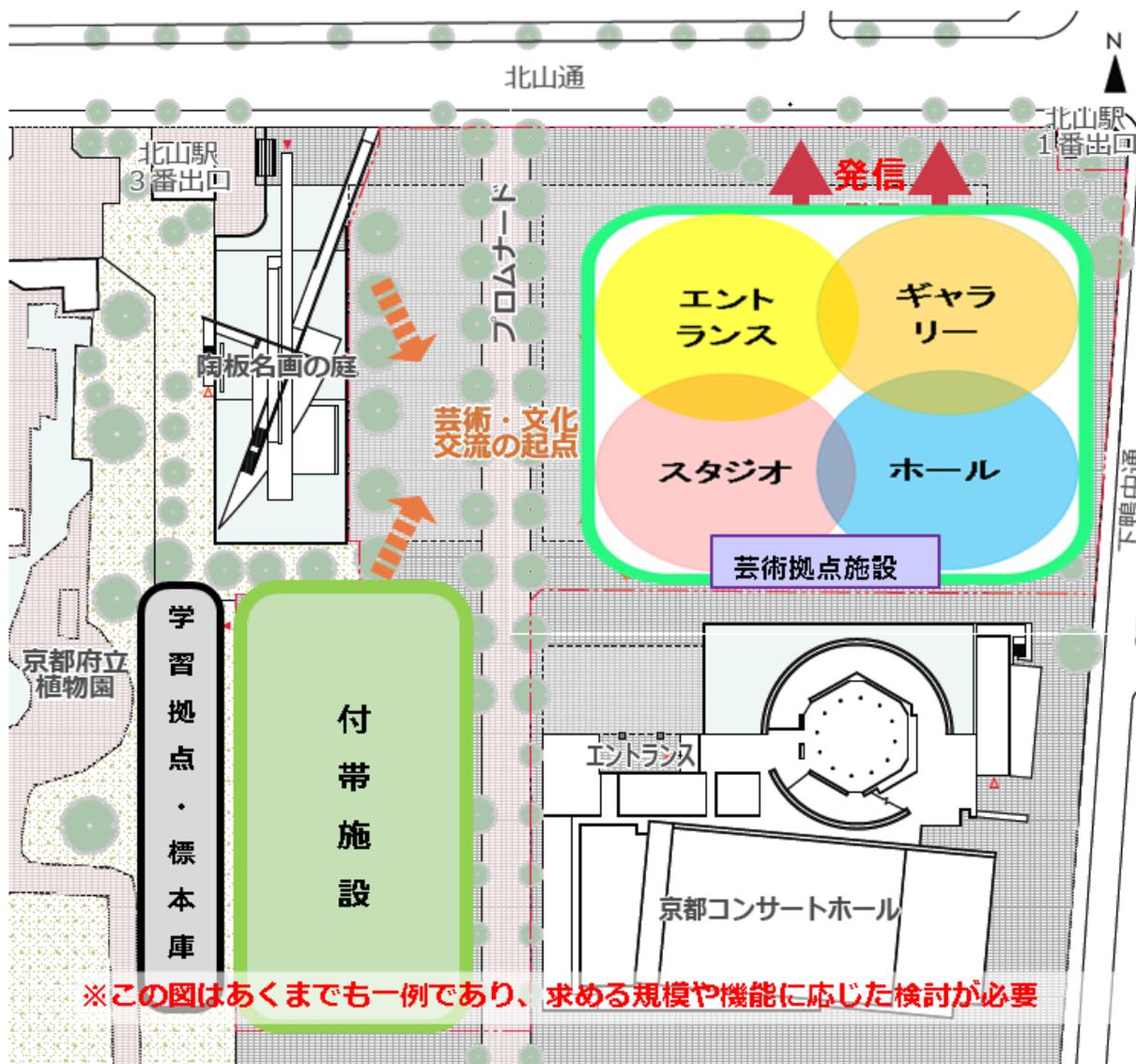
並木みち「プロムナード」



様々な文化活動が内外で展開する広場

施設・設備	必要となる具体的な機能		
付帯施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 舞台芸術・視覚芸術拠点施設だけでなく、エリア内各施設の付帯施設として位置付け。 ・ 幅広い施設形態が考えられ、施設イメージと期待される連携効果を以下のとおり例示。 		
	(求められる機能)	(施設イメージ)	(期待される施設連携効果)
	<p>【交流】 北山エリアを訪れた人々や各施設の利用者が滞在して交流できる機能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ショップ ・ カフェ ・ 迎賓 ・ バンケット施設 ・ みどりと文化の交流施設 ・ 市民・大学交流センター 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 植物に触れる機会創出 ・ おもてなし施設/くつろぎ空間/回遊動線の創出 ・ ウェルビーイング向上
	<p>【創造】 大学や文教施設が多く立地している利点を活かした新たな価値を創造する機能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 産学連携イノベーション施設 ・ ラボ/ワークショップ施設 / 滞在型創作/研究施設 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緑を守り育てる活用/研究保全への活用 ・ コラボ/共同研究/人材育成への寄与
<p>【発信】 文化芸術・学術等の北山エリアの魅力を発信する機能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報センター/ライブラリー等 ・ 植物園の学習連携 ・ 情報発信施設 	<ul style="list-style-type: none"> ・ キャンパスエントランスとしての発信 ・ 植物園の幅広い情報発信 	

4-3 舞台芸術・視覚芸術拠点施設が果たすべき機能・役割



- ・北山通から視認性が良く、気軽な市民参加を促し、文化芸術の魅力発信に繋げる。
- ・「自然環境と文化芸術の共存」の実現には、エリア内の自然環境を活かした景観形成が重要である。
- ・付帯施設が有する「交流・創造・発信」機能の具体化には民間事業者との対話が求められる。
- ・芸術拠点施設と付帯施設の配置については、求める規模・機能により変化すると考えられる。
- ・陶板名画の庭や京都コンサートホールも含めた施設間連携のあり方の議論も必要である。

本日、御意見をいただきたい論点

- ・ 舞台芸術・視覚芸術拠点施設が果たすべき機能・役割について
- ・ 付帯施設を含めた整備・運営の最適な事業手法について
- ・ 植物園や京都コンサートホールなどの隣接する施設との調和や連携について

【参考①】京都市内での舞台芸術・視覚芸術拠点施設（ホール）一覧

京都市内施設事例	文化芸術会館 (422席)	子ども文化会館 (608席) ※令和2年11月閉館	京都四条南座 (1,082席)	ロームシアター京都 メインホール(2,005席)	
		ロームシアター京都 ザウスホール(716席)	京都劇場 (941席)		
座席数での規模分類 (全国公立文化施設協会)	小ホール ~499席	中ホール 500~999席	大ホール 1,000~1,599席	特大ホール 1,600席~	
設置目的	創造・育成	市民発表・学校利用	興行・コンクール		
利用者	子ども・初心者も使いやすい 文化団体単独	連合組織・教育団体	プロ公演 上演団体・興行会社		
演 目	演劇	◎	○	△	-
	ミュージカル	○	○	◎	◎
	オペラ・バレエ	-	△	○	◎
	ダンス	◎	◎	○	△
	オーケストラ・吹奏楽・合唱	○	○	◎	◎
	室内楽	○	◎	○	△
	独奏・独唱	◎	○	△	△
	歌舞伎	-	△	◎	◎
	日本舞踊	◎	◎	○	-
	文楽	△	◎	△	-
能・狂言	◎	△	△	-	
求められる施設・設備	コンパクト・簡易操作		⇒	大規模・高性能	

【参考②】旧総合資料館敷地暫定活用事業

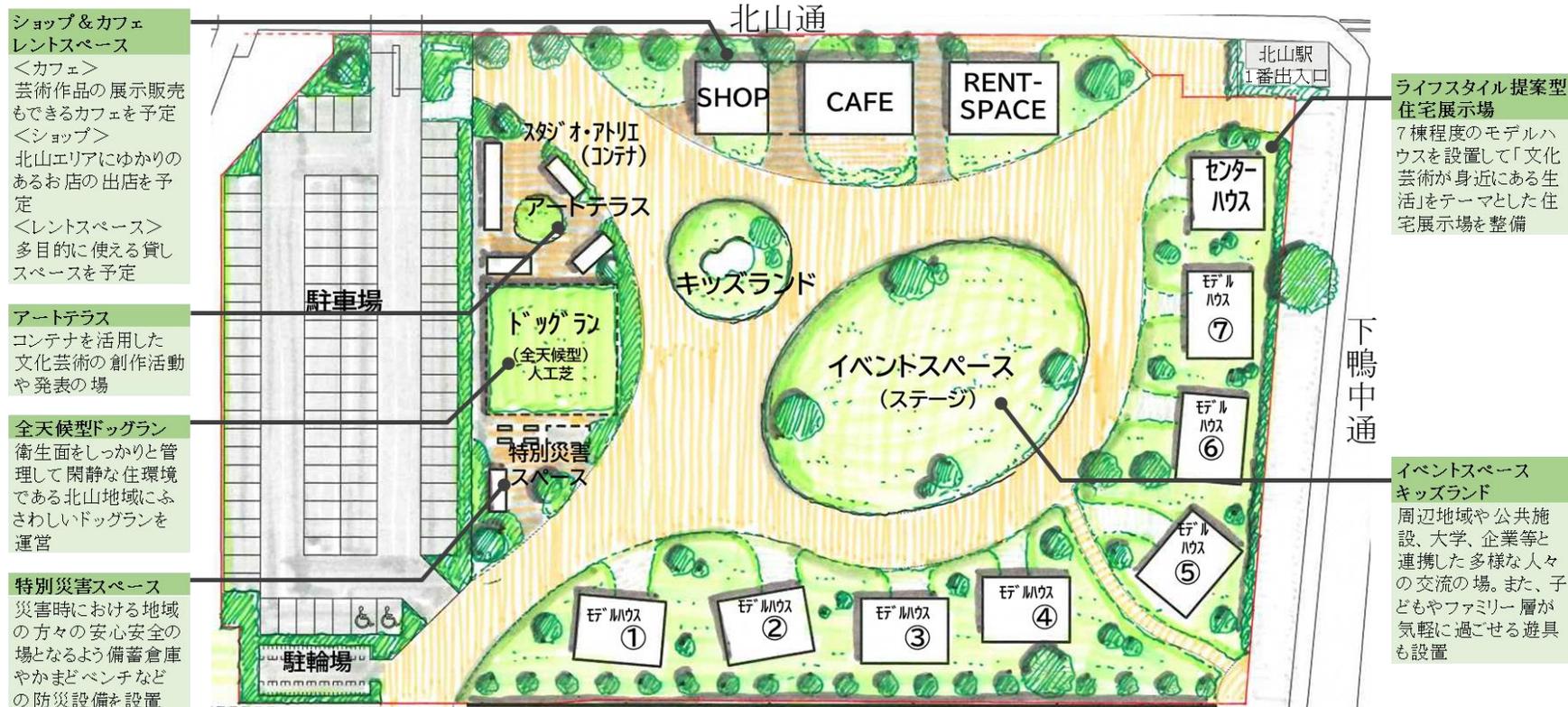
○舞台芸術・視覚芸術拠点施設の整備をはじめとした本格活用までには、都市計画に関する手続きや埋蔵文化財調査など、相応の時間を要することから、防災・防犯上の懸念がある既存建物等の解体撤去とあわせて、北山エリアの魅力向上につながる遊休地の有効活用を行う。

事業期間：令和5年12月～令和14年3月（うち、解体工事期間：令和6年1月31日～令和7年1月31日（予定）

○現在、解体工事を行うとともに、具体的な施設の内容や配置等について事業者と協議を進めているところ。

事業者提案の暫定活用計画（令和6年1月時点）

『文化と憩いに彩られたライフスタイルを提案する住宅公園』



※行政機関・関係者・出展者等との調整状況により、計画を変更する可能性があります。